

エジプトの大衆娯楽

2022年春に天理参考館で開催された現代エジプト展の娯楽コーナーに展示された田中四郎の収集品と同じ品々が、今でもカイロの街角で見かける。

カイロの街を歩いていると、必ず出くわすのがカフェや喫茶店である。店舗を構えて営業している店もあれば、路上で椅子や机を並べて営業しているものまでさまざまである。路上カフェを利用する—正確には利用できる—のは男性であり、男性の社交場である。もちろん、若い女性や家族連れが利用する喫茶店も多く存在する。

路上カフェにかかせないものに、コーヒーや紅茶などの飲み物や水タバコとともに、ボード・ゲーム(ゲーム盤)がある。「タウラー」(バックギャモン)(図1)は世界的にも有名なゲームであるが、その歴史は古く、世界最古のゲームの一つと考えられている。Windows製のパソコンには幾つかのゲームが標準搭載されていたが、その一つがバックギャモンでもあった。

筆者もエジプトへ留学して初めて、バックギャモンを目にした。

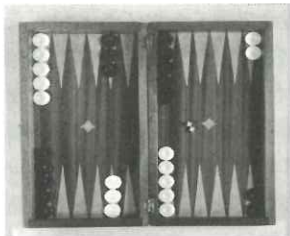


図1 タウラー  
(天理参考館蔵)

このゲームは二人で行うが、カイロの街中では、バックギャモンに夢中になる「エジプト紳士」を取り囲むギャラリーの姿も日常の光景である。

バックギャモンの次に人気があるのがドミノであろう。日本で「ドミノ」と聞いて人々がイメージするのは、恐らく「ドミノ倒し」か「ドミノピザ」であろう。

テレビ番組では、芸能人たちがドミノ倒しに挑戦したり、軽快な音楽とともにピザ屋のテレビCMがしばしば放映されたりする。「ドミノ倒し」と呼ぶ理由は、ドミノで用いる牌を用いることに由来しており、ドミノ・ピザのロゴにもドミノ牌が用いられている<sup>(1)</sup>。

近年、日本のみならず世界的に見ても、テレビゲーム産業の興隆が目覚ましい。子どもや若者に人気のテレビゲームが多く登場しており、エジプトでも多くの若者がテレビゲームに興じている。しかし、エジプトの庶民を見ていると、世代間で違いはあるものの、娯楽を楽しむ姿は大人も子どももそれほど変わらないように思われる。

水タバコの楽しみ

筆者が水タバコ(図2)を初めて知ったのは、高校の世界史の教科書であった。エジプト建国の父として知られているムハンマド・アリー(1769~1849)がイギリス代表との会談に、水タバコを燻らせながら応じているという絵画である。第2次エジプト・トルコ戦争は、当初、エジプトがオスマン帝国を圧倒していた。それに



図2 水タバコ  
(天理参考館蔵)

もかかわらず、イギリスの介入によって、ムハンマド・アリー率いるエジプトは降伏を余儀なくされた。そのため、絵画は降伏交渉を行っている光景を描写したものである。ただし、状況的に、ムハンマド・アリーが水タバコを楽しむほどの精神的余裕があったとは思えない。

喫茶店で、男性たちのなかには、水タバコを吸いながらボード・ゲームに興じてい

る者も多くいる。水タバコ(シーシャ)の仕組みは以下の通りである。まず、タバコの葉を詰めてアルミホイルで蓋をし、アルミホイルに小さな空気孔をいくつか開けたうえで台にセットする。そして、真っ赤に焼けた炭を、アルミホイルの上に置き、パイプから息を吸ったり吐いたりする。こうすることで、アルミホイルに開けた空気孔から空気が送られてタバコの葉が燻される。燻された煙は水を一度くぐった後にパイプから出てくるため、冷たく感じられる。火が弱まってくると煙が出にくくなるため、炭を交換してもらう。一度セットすると、タバコの葉から数時間は煙が出てくるため、長時間タバコを楽しむことができる。

タバコの葉は、リンゴやブドウなどのフルーツをはじめとするフレーバーを選択できるため、自分の好きな香りを選ぶことができる。もちろん、副流煙ではあるが、喫茶店の横を通ると甘い香りがする。

また真偽は不明だが、友人は紙タバコよりも水タバコのほうが健康的だと言っていた。その友人は、「タバコの煙は水をくぐったときにタールが落ちるから、紙タバコよりも健康なんだ」、と筆者に力説しながら、2時間近く水タバコを吸い続けていた。

アラブ・コーヒー

また欠かせないのが、コーヒーや紅茶である。「コーヒー」という呼称の起源はアラビア語の「カフワ」(qahwa)である。コーヒーの起源は諸説あるが、その一つにエチオピアがある。エチオピアはイスラームとの関わりが非常に深い地でもある。イスラームが創始された直後、一部のムスリムが迫害を逃れるために移住した地であった。

エジプト訛りでは「カ」の発音が「ア」になってしまうため、コーヒーのことを「アフワ」と呼んでいる。私たちが飲むコーヒーは、多くの場合ドリップ式である。つまり、フィルターで濾したコーヒーである。しかし、アラブ・コーヒーやトルコ・コーヒーと呼ばれるコーヒーは、濾すのではなく煮出して飲む。ドリップ式のコーヒーの粉と異なって、アラブ式のコーヒーの粉は焙煎後に粉末状にする。粉末状にした粉は、水やカルダモンやシナモンなどのスパイスとともにコーヒーポット(図3)に入れる。もし甘さが必要であれば、あらかじめ砂糖を入れたうえで火にかける。吹きこぼれないようにじっくり火にかけたうえで、粉ごとカップに注ぐのである。コーヒーの粉を煮出すため、味やカフェイン量も非常に多い。しかしながら、スパイスが入っているため、全体として爽やかな味わいである。



図3 コーヒーポット  
(天理参考館蔵)

数か月前に、一度飲んでみたいと言う学生たちにアラブ・コーヒーをふるまってみた。初めて飲んだ味で、コーヒーとは思えないと言っていたが、思った以上に美味しかったようだ。ちびりちびり飲みながら楽しくおしゃべりをする光景は、日本もエジプトも変わらない。

[註]

(1) 日本ドミノ協会はドミノ・ゲームの団体ではなく、ドミノ倒しの団体である。